

乙女高原が好き！ 1603 号

乙女高原の草刈りで、スタッフ・デビューを!!

11月23日(水・祝)小雨決行 荒天の場合、27日(日)に延期

今回で17回(年)目となる、ボランティアによる乙女高原の草刈り作業。これまで一度も雨に降られたことがないこのイベントの歩みをちょっと振り返ってみましょう。

回	西暦	参加者数	トピックス
1	2000	198	牧丘町、『乙女高原の森』連絡会議、塩山林務事務所の共催。参加費 100 円。
2	2001	204	村づくりセミナー同時開催。グリーンロッジに泊まり込み、熱く語り合った。
3	2002	190	山梨高校寮の跡地から大量のごみが見つかる。
4	2003	194	キッズボランティア「ブナじいさんに落ち葉のふとん」試験的に実施。
5	2004	221	キッズボランティア「ブナじいさんに落ち葉のふとん」充実。
6	2005	206	合併により(新)山梨市との協働による初めての草刈り。
7	2006	236	キッズも草刈り。最後に分かち合いの時間。マイお椀・マイ箸持参協力。
8	2007	267	草の運び出しにビニールシートを利用(甘利山倶楽部のアイデアによる)。
9	2008	218	
10	2009	251	10周年感謝状作製。キッズ「ブナじいさん」復活。藁撒きを林道ののり面下に。
11	2010	207	
12	2011	245	(株)田丸のごみ収集車で琴川ダム残土処分場に藁撒き。
13	2012	184	路上駐車厳禁。草刈り機は恩組のみ。
14	2013	182	
15	2014	203	山梨ロータリークラブより乙女高原案内看板の贈呈式。
16	2015	265	草原を囲うシカ柵設置後初の草刈り。藁撒き搬出先を変更。

このイベントの自慢できるところは、「毎年同じ」ではなく、少しずつですが進化し続けているところです。キッズボランティア、刈り草運びにビニールシートの活用、ごみ収集車による刈り草運びと藁撒き……。今年も変わりますよ。駅からの送迎バス運行です(無料)。新しいことを始めるのですから、申し込み方法、申し込み先、運営方法……など決めなくてはならないことがいっぱいです。でも、今まで参加が少なかった高校生や大学生など若い人たちが参加しやすくなるチャンスです。詳しくは同封のちらしをご覧ください。

一方、変わらない点もあります。200人を越える参加者、市・県・ファンクラブ・会社・諸団体等による協働体制、豚汁作り・救護・ロープ回収などのスタッフ立候補。今年もたくさんの参加者が見込まれます。たくさんの参加者を受け入れるためには数多くのスタッフが必要です。ぜひ、スタッフへの立候補をお願いします。

■スタッフの例（詳しくは事務局にお問い合わせください）■

- 1 駐 車 場 係→朝、車の誘導など（林道は緊急車両とゴミ収集車以外は駐車禁止）
- 2 受 付→朝、受付と班分け、資料と飲み物の配布など
- 3 班 の 世 話 役→各班の段取り。草刈り場所の提示。作業の進み具合を本部に連絡など
- 4 キッズ班世話役→子どもたちをブナじいさんに誘導。作業の支援など
- 5 豚 汁 係→豚汁の調理。炊事用ゴム手袋等は支給します。

当日朝来て、すぐにスタッフ仕事ができるようマニュアル本をお渡しします。また、各係にそれぞれ市・県・ファンクラブ世話人の誰かが配属され、その方から仕事内容が教わるようになっていきます。さらに、実施10日前の日曜日に「草刈りボランティアの下見と準備の会」を行いますので、その場でもスタッフ仕事の確認ができます。スタッフに立候補くださる方は事務局までご連絡ください。

■草刈りボランティア 下見と準備の会■

11月13日(日)雨天決行 10時 ロッジ前集合。午前中で終了。

- 内容 キッズのルート作り、草原の区割りのテープはり、ロッジやトイレの清掃、備品等の確認
- 午後 せっかくですからお弁当を食べて、午後から乙女高原の自然観察というのはいかが？

■(株)田丸のゴミ収集車をお借りして藁撒き工法

昨年、山梨市によって設置されたシカ柵によって、草原の草花たちは回復してきています。だからこそ、草原の草刈りと草の運び出しはますます重要になります。刈った草を持ち出さないと草原の「富栄養化」が進み、ススキの一人勝ちになってしまいます。また、草原の中に生えてきた木の赤ちゃんと一緒に刈ってしまわないと遷移が進み、草原が森林になってしまいます。

今年も刈った草は(株)田丸のゴミ収集車をお借りして、琴川ダム残土処分場に運びます。ここに刈った草を運び込み、草原の自然再生を目指します。これを「藁撒き工法」といいます。



■ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんを

今年も子ども向けのプログラムである「キッズボランティア・ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんを」を行います。毎年、保育園くらいの小さい子から小学校高学年くらいまでが参加しています。乙女の草刈りには親子連れでご参加ください。

もちろん、竹居さんと藤巻さんご自慢の豚汁もあります。お楽しみに！



■注意事項

- ・一般参加の皆さんは手刈りのみにしてください。(刈り払い機は主催者がお願いした方のみ)
- ・林道への路上駐車は厳禁。できるだけ相乗りで。(刈り草をゴミ収集車に入れる作業をしなければならぬので、路上駐車が一番困ります)
- ・「午前中の作業終了→記念写真→昼食」という流れにします。(作業を時間で打ち切りますので、ご承知おきください)

第17回乙女高原の草原を守る！ 草刈りボランティア

- 日 時 11月23日(水・祝) 少雨決行 午前9時半から午後2時 ※荒天の場合27日(日)
- 集 合 乙女高原グリーンロッジ
- 持ち物 弁当、飲み物、軍手、雨具、おわん・はし(豚汁用)、お持ちの方はかまなどの道具。
- 参加費 無 料(主催者負担で保険に加入)
- 内 容 草刈り、草の運び出し、ロープ回収、ゴミ拾い、キッズボランティア、豚汁作りなど
※2012年の草刈りの様子を見ることができます(YouTube「風の言葉 乙女高原」で検索)

見に来てください! 「乙女高原展」 in 街の駅やまなし

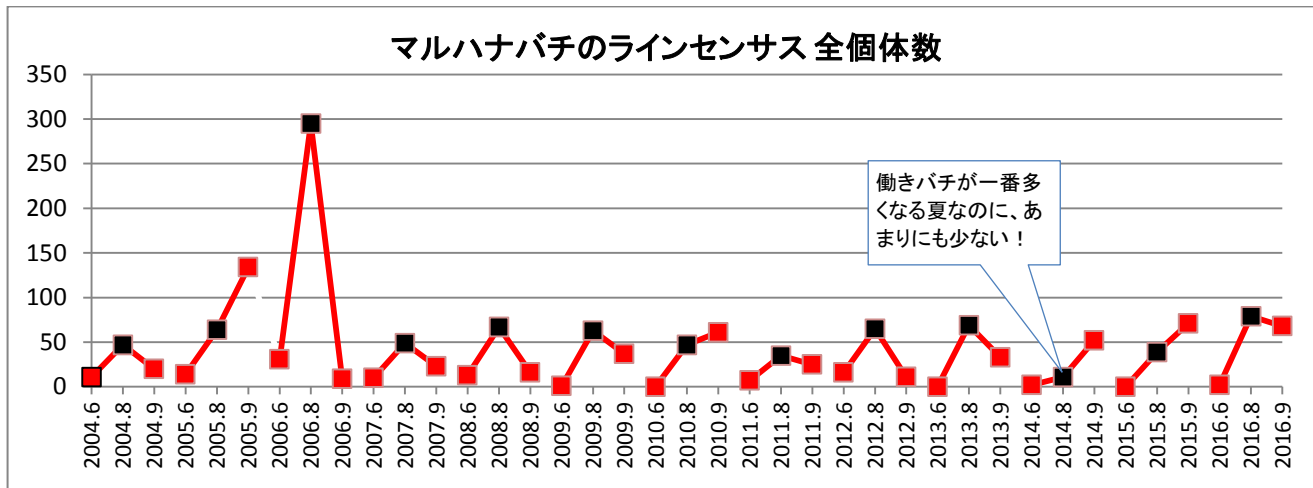
山梨市駅から北徒歩1分で「街の駅やまなし」です。建物に入って左に5m進むと左手に乙女高原の展示スペースがあります。建物の西側には広い駐車場もあります。ぜひ、乙女高原の展示を見に来てください。

- season 1 「乙女高原の写真屋さん」古屋光雄さん写真展 5月1日～6月30日・・・終了
- season 2 「ネイチャーフォトグラファーおとめちゃん」鈴木としえさん写真展 7月9日～9月4日・・・終了
- ★season 3 「乙女高原の写真屋さん」古屋光雄さん写真展Ⅱ 9月4日～10月末日・・・好評開催中
- season 4 (予定)「乙女高原の草刈り」11月初旬～12月末日
- season 5 (予定)「乙女高原フォーラムと谷地坊主」来年1月初旬～2月末日
- season 6 (予定)「乙女高原のスマレたち」来年3月初旬～4月末日

これもシカ柵のおかげ?! マルハナバチの復活!!

■ちょっと長い前書き

今年夏のラインセンサスで「1時間で79頭」と、たくさんのマルハナバチに出会えました。年3回行うマルハナバチ調べ隊を始めて13年になりますが、歴代3位の多さです。うれしくて仕方ありません。マルハナバチがたくさんいるということは「その時期にたくさんの花が咲いている」ということだけでなく、「春から秋にかけて、さまざまな花がバトンタッチしながら咲き続けている」、つまり、乙女高原のお花たち全体の健全な状況を表しているからです。



シカ柵は人工物です。その設置についてはかなり躊躇してきました。それでも2014年9月、意を決して市長さんにシカ柵設置をお願いしたのは、マルハナバチたちから「もうダメ。限界」という声なき声を聞いたからでした。

グラフをみてください。2014年8月の結果は11頭。8月といえば、マルハナバチが最も多くなる時期です。あまりにも突出している2006年8月の295頭というデータを除いて、8月の頭数を平均すると56頭です。生き物ですから年による変動はあるにしても、2014年はあまりにも少なく、乙女高原に「沈黙の夏」が来たのかと思いました。

市長さんは前向きな検討を約束してくださり、担当課である観光課の皆さんががんばってくださったおかげで、県の補助金も取れ、いよいよシカ柵設置が具体的になってきました。それでも「本当にシカ柵を作ってしまったのだろうか?」という疑問が心の隅から消えませんでした。

この疑問を完全に払拭してくれたのは、やはりマルハナバチでした。写真を見てください。翌2015年夏、たくさんのマルハナバチが花ではなく、トイレの換気塔周辺に集まっていた。トイレの換気口からはヒトの排泄物に含まれるミネラル分が出ているのでしょう。それを求めてチョウやハエが来るのはそれまでも見ていましたが、マルハナバチが、しかも、こんなに多く集まっているのは初めて見ました。衝撃でした。きっと、花があまりにも少ないので、こんなところで飢えをしのいでいたのです。あまりにも惨めです。

そんな経緯があって、昨年11月に完成したシカ柵です。実質的に今年がシカ柵元年です。本当に1年目からマルハナバチは増えるのだろうか? それとも、回復までに長い年月が必要なのだろうか? ととてもとても心配していましたが、1年目からこんなに回復し、まずはほっとしています。



■第14期 マルハナバチ調べ隊～初夏編● 6月26日(日)

せっかくのマルハナバチ調べだというのに、もうレンゲツツジは終わっていますし、アヤメもがんばって咲いてはいますが往年の数ではありません。アヤメを訪れるたくさんのマルハナバチが観察できた頃、アヤメは10や20といったまとまった数で群れて咲いていました。でも、今年は1本1本が独立して咲いている感じです。「出会えるかなあ」と心配しながらラインセンサス調査に出発しました。

案の定、なかなか出会えることができず、結局、アヤメの蜜を吸いに来っていたトラマルハナバチの働きバチ一頭と、葉の上で休んでいたコマルハナバチの雄バチ(たぶん)の2頭だけでした。

仕方がないので、午後からの待ち伏せ調査はあきらめ、ブナじいさん→湿地までの観察ハイクをしました。

■第14期 マルハナバチ調べ隊～盛夏編● 8月6日(土) ※8月の乙女高原観察交流会と兼ねて開催

参加者は13名でした。朝からいい天気でしたが、このところ午後から激しい雨に見舞われることが多いので、早め早めに行きました。ラインセンサス調査の結果は総数79頭でした。訪れていた花で多かったベスト3はノハラアザミ(計22

頭)ヒメトラノオ(20)クガイソウ(10)でした。

いつもは午後に行っていた待ち伏せ調査も前倒して午前中に実施。ある花(の群落)の前で一定の時間(15分刻み)待ち伏せし、来たマルハナバチの種類と行動を記録します。最終的には1時間換算で、何頭のマルハナバチが来たかを算出しました。遠くから雷鳴も聞こえ、心配したのですが、雨に降られることはありませんでした。結果、1時間換算でマルハナバチの来訪が多かったベスト3はヒメトラノオ(1時間換算で計35頭)クガイソウ(29)ノハラアザミ(28)シシウド(28)でした。

■第14期 マルハナバチ調べ隊～初秋編● 9月3日(土)レポート:井上敬子さん ※9月の観察交流会と兼ねて

この日の参加者は芳賀さんのお孫さんの女の子も含めて8名。天気は雲はあるものの晴れて観察日和である。10時にロッジ前のベンチの所で植原さんのレクチャー開始。マルハナバチの種類や行動について、調査の方法について話を聞く。その後、皆で草原を歩きながら、どんなマルハナバチがどんな花に来て、どんな行動をしているかを記録するラインセンサス調査を行った。

今年はシカ柵の効果で、草原内の花が多く咲いている。そのためマルハナバチもたくさんいる。どのハチも忙しく蜜を吸い、花粉団子もつけているのも多かった。ノハラアザミ、タムラソウ、ヤマハギなどに来るハチが多いようだ。ハチの種類ではミヤママルハナバチ(ミーちゃん)が最も多く、次にトラマルハナバチ(トラちゃん)、オオマルハナバチ(オーちゃん)も数頭見かけた。私の記録では1時間ほどの調査で60頭、調査用紙2枚では書ききれないほどだったが、植原さんは68頭見たとのこと。さすがだ。今年はマルハナバチが多い感じはあったが、実際に調査してみると、本当にたくさんいて、嬉しかった。

少し早めの昼食をとり、午後から待ち伏せ調査を行った。マルハナバチの来そうな花の所で15分間、どのハチが何をしに来るのかを調査する。これを各自2回行った。私は1回目、花がたくさん咲いているノハラアザミの前で行った。15分間にミーちゃんが15頭、トラちゃんが10頭、次々にアザミの花を移動しながら、蜜を吸っていた。

2回目はハバヤマボクチの前で調査した。ここにはトラちゃんしか来なかった。大きな下向きの花の中にもぐって、花粉を体にたくさんつけながら、蜜をすっていた。4頭やってきた。ここはツツジのコースへの分かれ道で、タムラソウが群落になっている。アカタテハが長い間、蜜を吸っていたり、2頭のミドリヒョウモンが交尾をしそうな様子を見せたり、たくさんマルハナバチがタムラソウに来ているのも見ることができた。

終了後、各自が調べた結果を報告し、植原さんが集計して1時間換算の数を発表した。その結果はノハラアザミにくるのが最も多く、マルバダケブキ、タムラソウにも多く来ることがわかった。

この日の観察で、花とマルハナバチの関係が深いことがよくわかった。小さいヤマハギの花にはミーちゃんしか来ないし、大きなハバヤマボクチの花にはトラちゃん、トリカブトやツリフネソウ、キバナアキギリのような、もぐらなくてはならない花には、ぴったりの大きさのトラちゃんが入り込んでいる。マルハナバチは自分の決めた同じ種類の花を渡り歩く習性があるので、花はマルハナバチにしか入れないような形に進化して、受粉をしてもらい、蜜を与えているのだそう。動くことができない花は、きれいな色や形、いいにおいや甘い蜜で虫を誘い、虫を使って子孫を残す。花のすごい戦略には驚くばかりだ。

たくさん花とマルハナバチ、その他の昆虫も観察できて、とても楽しく有意義な一日であった。



夏の案内人自主活動レポート

乙女高原案内人の山本義人さんから「夏休み期間中、乙女高原を訪れるてくれる人へのガイド・ボランティアを行いたいのだが、一緒にやってくれる方はいるだろうか」という提案をいただきました。ロッジがまだ営業しているところは、毎週末、乙女高原案内人が交代で乙女高原に駐在し、訪れた方のガイドをしていました。それを少しでも復活させたいとのことです。呼びかけたところ、大勢の案内人がこの活動に参加してくださいました。

■夏の案内人自主活動 7月30日(土) レポート:山本義人さん

天気は晴れ、最高気温は勝沼で36.1度だったようですが、乙女高原の温度計は10時頃に23度～15時頃は25度、百葉箱の中では10時頃18度～15時頃でも21度でした。直接陽が当たり続けるとさすがに少し暑く感じるので、テーブ

ルは木陰になるよう移動しつつ、乙女高原案内人の看板を掲げて来訪者を待ちました。この日の案内人は私と井上さんと古屋さん、それに内藤さんが午前中参加してくれました。それに乙女高原の観察会によく参加される山井さんご夫婦が井上さんの声かけで来てくれました。

最初のお客さんは東京からの3人家族、息子さんがご両親を連れてこられたようで、お目当てはチョウを見たいということでした。お弁当食べて昼少し過ぎまでおられましたが、ミドリシジミが見れて良かったと言って帰られました。

次のお客さんはやはり東京からのご夫婦で、車を降りてまっすぐ案内人テーブルまで来られ、「ネットで見て初めてきました」と言っていました。お二人で鳥と蝶を追っかけて楽しんでいるようです。ご主人は望遠カメラで、奥さんは双眼鏡でジャノメチョウやヒョウモンチョウの紋の数などを数えたりして蝶はいろいろ楽しめた様子でしたが、この日の日中は鳥の鳴き声は聞こえず、あまり出会えなかったようです。それでもお弁当を持って来られていて昼過ぎまで楽しんでおられました。乙女高原でカッコウやツツドリなどの鳴き声を聞きますかと質問されました。ツツドリがいれば托卵する相手のムシクイもいるのだがと鳥についても詳しく、乙女高原に来る前に乙女湖のところでハチクマが見れてことで、今日はこちらに来てよかったとおっしゃって帰られました。

続いて来られた子供2人を連れた家族連れは、奥さんは地元牧丘出身で子供の頃に乙女高原のロッジで合宿したことがあるということで、内藤さんに案内してもらいました。

山井さんご夫婦はご自分たちで林道沿いや草原内の観察を楽しまれていて、案内人もときどき交代で一緒にしたりして、山井さんが林道沿いで見つけられたというヒナノウスツボとナスの花に似た小さな花をつけたつる性植物(後で調べてヤマホロシ)を教えてくださいました。また草原内にタチゴメグサが咲いているのも見つけてもらいました。

昼頃に30~40名の観察会グループが来られました。毎日新聞主催の観察行で、メンバーの中に山井さんのお知り合いがいらっしゃるといことで、偶然の出会いにびっくりするとともに、だからおもしろいなと思いました。

以前設置した試験的柵内の花だけが目立った草原が、今年はその周りにも花が咲いてあまり変わらないねという印象をもったのは私だけではありませんでした。花だけでなく花を求めて集まる昆虫もまた楽しめる乙女高原を避暑を兼ねて訪れてもらいたいとあらためて思いました。

草原およびその周辺の林にヒメボタルがいないか、暗くなるまで待ってみました。残念ながらヒメボタルは確認できませんでしたが、梅雨明けで晴れていて星空が良く見えました。流れ星も見れました。せっかくですから星空観察して帰るのも楽しいと思います。この夜は二人の方が草原脇の駐車場で星空の写真を撮っていました。

■夏の案内人自主活動 8月6日(土) レポート:依田 昇さん

8月の交流会を兼ねた夏の2回目観察会を行いました。この日はマルハナバチ調べ隊盛夏編の活動と重なり、集合時間の10時の時点ではここ何年か継続的に行われているマルハナバチに総ての参加者が集まり、観察会には参加者が集まりませんでした。案内人の私たち夫婦と山本さんの3人で留守番とこれから来られる参加者を待つ事にして、植原さん、井上さん、芳賀さんがマルハナバチに付き添いました。その後何人かに声をおかけしましたが、富士山だけを見に来た人、何回も来ているので自分達だけで観察したい人等、何組もありましたが同行希望者はありませんでした。先週も高原に来ていた山本さんに後を頼み、夫婦で高原に出かけました。

7月10日に下見に来た時、キンバイソウの多さと花の美しさにびっくりしました。シカ柵が出来てこんなにうれしい変化が現れたのか、咲いている花は前回の山本さんの報告書の通りです。ヒメトラノオ、タチフクロ、ツリガネニンジン、ワレモコウ等は特に華々しく感じられました。乙女高原ファンクラブの皆さん、この報告書を目にする皆さん、今年の乙女高原の変化を見に来てください。

午後、山井さん夫婦が先週に続き見えました。マルハナバチ調べ隊に同行していた岡崎さんも見えました(この皆さんは植物学者のように山野草の事を良く知っています)。案内人の井上さんと私たち夫婦、総勢6人で水ヶ森林道を高原には無い花を求めブナ爺の真下まで歩くことにしました。ヒナノウスツボ、色彩の素晴らしいフシグロセンノウ、ソバナ、ミツモトソウ、ヤマホロシ、ミヤマタニタデ、オオヤマサギソウを見て、そこからヨモギ頭に移動ここでトンボソウを見る。ロッジ玄関前の草むらで、皆で大激論「屈毛」「線毛」「イワアカバナ」「ケゴンアカバナ」。結論は、山本さんの「茎の稜上に2列の屈毛がある」の見解によりケゴンアカバナに落ち着きました。残りの観察会を楽しみに、今日の観察会を終了しました。

帰りに山梨駅前「街の駅やまなし」で鈴木としえさん「ネイチャーフォトグラファーおとめちゃん」の写真展を見て来ました。小さいスペースですが、なつかしい楽しい写真が見られます。

■夏の案内人自主活動 8月13日(土) レポート:山本義人さん

天気は曇り、時々晴れ。気温は午前10時22度(百葉箱17度)、午後2時25.5度(百葉箱19.5度)。ハンゴンソウやタムラソウも咲き始めています。ススキが目立ち初秋の様相です。今日は芳賀さんと私の2人でした。10時前から来られていて10時頃には帰られたご夫婦が1組ありました。10時30頃草原横の駐車場に車を止め草原内を散策しているご夫婦1組が見えました。

10時50分頃に地元のご夫婦が見えられ、2人とも乙女高原でスキーをしたことがあり、ご主人はスキー大会に出たこともあってスタート地点だった場所まで上って、その先のブナじいさんまで行って来られたと話してくれました。奥さんからは電動のロープにしがみついて上の方まで行くのが大変だったとか、学校で合宿した時にヤナギランが一面に咲いていた思い出などが聞けました。つつじ祭りに小柳ルミ子が来たことがあるといい、毎年つつじ祭りに来ていたようです。アサギマダラも見れて良かったと言って11時35分頃に帰られました。かつて乙女高原を訪れたことのある方々の思いで話を聞いて

あげることも案内人として意義があるのだと実感しました。

11 時頃バイクで来た男性はベンチで休憩してそのまま 11 時 20 分頃立ち去りました。11 時 5 分頃母親と小さな娘 2 人の親子が来られ 1 時間ほど草原を散策して帰りました。母親は子供のころスキーをしに来たことがあると言ってましたので、お盆で実家に帰省され、ご自分の子供を連れてきたようです。

11 時 20 分頃年取ったご両親とその子供といっても大人たちですが、ご家族 5 人連れでアサギマダラが見たいと言って、老母の車いすを引いて草原の中に入って行きました。戻ってこられてアサギマダラが見れて良かったとおっしゃってくれたので、その食草や雄雌の区別の仕方や雄がヨツバヒヨドリに来る理由など生態についてお話したら喜んで聞いてくれました。県外の方のようで 12 時 5 分頃帰られました。入口の段差や刈った下草を敷きつめた遊歩道では車いすには不便なので、車いす用の散策コースというのがあったらいいなと思いました。

11 時 30 分頃焼山峠から歩いて来られたという男性がベンチで休んで昼食をとった後に、12 時頃から草原を散策されました。草原から戻った後にお話しされた芳賀さんからお聞きしたところでは、埼玉からの方で、バスで焼山峠まで来てまたバスで帰られるとあって 13 時 40 分頃戻っていかれました。

11 時 45 分頃茅ヶ崎からミニバイクで来られた男性は休憩だけ。12 時 10 分頃車 2 台で来られた 6 人グループも食事だけ。14 時 15 分頃男性 1 人が車で来られ草原を散策しました。空模様もあやしくなってきたので 15 時過ぎた時点で帰りました。訪問客は多くありませんでしたが、この日案内人をしていて有意義だったと思いました。

■夏の案内人自主活動 8月20日(土) レポート:依田 昇さん

乙女高原、柳平周辺の天気予報は一日中雨、小田原も小雨、でも大降りは無いと思い 6 時半小田原出発、9 時山梨市通過の時道路は乾いていました。9 時半乙女高原到着、小雨に変わっていました。いつも高原に来る林道では車やバイクに会うのですが、今日は一台も会いません、天気予報を見て「今日は山に行くのはやめよう」こんな状況のようです。それでも、案内人の内藤さん、井上さん、芳賀さんは 3 人のお孫さんを連れて参加してくれました。

私達がここに着く前に、駐車場には一台の車が止まっていた。高原を見ると 2 人の姿がありました。今日の高原のお客さんはこの 2 人だけでした。高原から戻ってきたときお話をしました。茅ヶ崎より乙女高原に 7 月に初めて来たそうです、すばらしい草花が観察できたので、再度観察に来たそうです。シカ柵で高原を囲っての 1 年目の夏、「いい年、いい時季に来ましたね、サクラスミレ、レンゲツツジの時季にもお出かけ下さい」そんなやり取りをしました。雨は小雨で降ったり止んだりです、お客さんも来ないので内藤さん井上さん三枝子が高原に出かけて行きました。私も 8 月 6 日の観察会報告書にこの感動を書いています。11 時過ぎ、高原に出てみました、今日の観察感想です。

- * ロッジから見てもあまり変わったようには見えませんが、高原の中央にハンゴンソウの大群落が良く見える、近くで見ると少し背が低いようだ。
- * 柵の中に入ると高原の景色は一変します。入り口近くのススキは昨年と同様背が高いが、昨年までは花を探して見つけていましたが、今年はススキを分けなくてもたくさんの花が目飛び込んできます。
- * 入口以外の遊歩道では、ススキもあまり気にならなくなりました。ススキの一株が小さくなった？背丈が低くなった？周りの花が強くなってきているのかな。
- * シロバナノカワラナデシコがたくさん見られました。
- * 日当たりのよい湿地が好きなウメバチソウ、双眼鏡がなかったので限定はできないが、過去に水が流れて深くえぐれた所、ツツジのコースから 15m ぐらいの所に 10 株前後が見えました。
- * 5-6 年前に試験的に作ったシカ柵の内部ではオミナエシが所せましと咲いていました。
- * 乙女高原の自然を守ってくれた皆さん、またシカ柵に携わっていただいた、市長さん、県職、市職、総ての皆さんありがとうございました。今年まだ乙女高原に来ていない方、今月中に変化した高原に足を運んでください。
- * [刈り取り実験]も今後良い結果をもたらしてくれると確信できるようになりました。
- * 来年の夏が期待で心一杯です。

柵の中で刈り取りを続けたら？・・・「刈り取り実験」

「乙女高原では 11 月に草刈りをしているが、違う時期に刈り取りをし、その影響をモニタリングし、刈り取りに対する草原植物の反応の違いを明らかにする」という刈り取り実験。この実験は元麻布大学教授・高槻成紀さんの提案で昨年まで 3 年間続けられました。今年は継続しない予定でしたが、やはり高槻さんの提案によって、昨年までとは違った意義の実験として継続することになりました。昨年までは「シカの影響のある草原での草刈り実験」でしたが、巨大シカ柵が完成したことにより、今年は、シカの影響が完全に排除された環境下で、シカの採食と同じような効果が期待できる「刈り取り実験」を行う(=人工的にシカの採食を創り出す)ことによって、植物たちにどのような影響が現れるかを実験することになります。

この実験では、草原内に 6 つの方形区を設定し、毎年、同じ処理をしています。

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| ① 6 月区: 6 月に区内の全植物を刈り取る。 | ④ 2 度刈り: 6 月と 9 月に区内の全植物を刈り取る。 |
| ② 9 月区: 9 月に区内の全植物を刈り取る。 | ⑤ 選択刈り: 6 月に区内のススキのみを刈り取る。 |
| ③ 11 月区: 11 月に区内の全植物を刈り取る(現行通り)。 | ⑥ 刈り取りなし: 刈り取りをしない。 |

■第4期草の刈り取り実験① 6月19日(日)

まず、高槻先生が方形区内の植物調査をし、どんな植物が、どの程度生えているかを調べ終わったら、宮原さんが刈払機で区内の草を刈りました。刈った草を三枝さんと植原が集めて、袋に詰め、重さを測って記録しました。最後に、その袋を成城学園の山小屋跡地まで運んでバラまきました。

午後からは「シカ柵の効果をみたい」という高槻先生にお付き合いして、二人で草原を歩き回りました。さすが!と思ったのは、柵内外でササの草丈を計り始めたことです。古い(今年の)笹、新しい(今年の)笹、それぞれ平均的なもの20本を選んで草丈を計り、記録しました。「柵の外の方が笹が元気」と言うより、こうやって数字で示した方がずっと説得力があります。やっているのは難しいことではありませんが、それをやるとやらないでは雲泥の差です。しかも、「このとき」のデータは「このとき」にしか取れません。「これが科学者の態度なんだな」と思いました。

■第4期草の刈り取り実験② 9月18日(日)

雨の中、5名で行いました。区画には四隅にポールを立ててあるのですが、実験・作業を行うときにロープを張って、10m四方を「見える化」しました。区画の中心で、高槻先生が折尺を使って植生調査をしました。調査が終わったら、草を刈り取り、刈った草を集めて、重さを計り、外に持ち出しました。

午後からは、シカ柵の影響を調べる植生調査を行いました。シカ柵を設置する前の、2015年9月に、草原内に10カ所の調査ポイントを設定し、ポールを立てておきました。ポールの場所にコドラートを置き、植生調査をしました。今年も同じ時期に(つまり、今)植生調査を行い、昨年の調査結果と比較します。9月4日に調査を半分済ませてあったので、今日は残った5つのポイントの調査を行いました。

おもしろいのは、刈った草の重さの変化です。

6,9月区は昨年も今年も同じような変化をしています。年に2回も刈るので、シカがいてもいなくても草へのダメージは同じように(シカとは比べものにならないくらい)大きいということでしょうか。

昨年と比べ、6月区は半分ほどに減っているのに、9

月区は逆に増えているのも興味深いです。6月は昨年までのシカの影響が色濃く残っていたので減りましたが、9月だと植物が生長する夏の間のシカの影響がないので、その分、草の量も増えたということなのでしょう。

刈り取った草の重量(kg)	2015年		2016年	
	6月	9月	6月	9月
6月区	45.5	—	20.0	—
9月区	—	64.2	—	80.1
6,9月区	7.6	40.8	4.3	41.8

日本植物友の会の皆さんを案内 レポート:内藤邦雄さん

乙女高原フォーラムや乙女高原自然観察会に来ていただいた多田多恵子さん。植物に関するたくさんの著書もあります。その多田さんがお仲間と一緒に乙女高原へ来ることになり、乙女高原案内人に草原の案内をリクエスト。三枝さんと内藤さんが引き受けてくださいました。そして、内藤さんがそのレポートを書いてくださいました。

9月1日、多田多恵子さん引率の植物愛好会の乙女高原観察旅行に道先案内人として同行いたしました。観察会は予定より30分遅れの10時30分にスタート。出発直前に餌付けされてしまった狐が参加者のサブザックをくわえて持ち去るトラブルが発生。往路は林道左側の遊歩道を三枝さんが先導し私が最後尾を歩くことにしました。楽しみにしていた多田さんのお話は聞けませんでした。参加者はとても植物に詳しい人ばかりで、木道(12時に到着)までの間に20種近くの種名を教えてくださいました。その殆どが私には初見、初耳のものばかり。コマヤマカタバミの群落は開花時には、きっと美しい花畑となるだろうとのこと。来春が待ち遠しくなりました。花芽を付けたタマガワホトギスの小株が二つあり、久しぶりの出会いにホットしました。

グリーンロッジ到着が12時50分となったので乙女高原内の散策は午前の部と午後の部を合わせて昼食後に行うことにしました。13時30分からの散策に先がけ乙女高原ファンクラブの四つのミッションの活動の意義とその活動例をお話してから、10年以上前のパンフレット、チラシ等に掲載した百花繚乱のカラー写真を見てもらいました。シカ柵設置前の昨年までは花の個体数が激減していたこと。シカ柵設置後の今年は個体数が思いのほか回復し、また数種が復活し改めてシカの食害の大きかったことを痛感していることを伝えました。

散策は森のコースから入り草原のコースを下り途中でレンゲのコースを回り駐車場へ出る道順としました。富士山のビューポイントでは、あいにく雲がかかり美しい姿を見ることが出来ず残念でした。乙女高原のピーク1700米の「ヨモギ頭」では「御料局三角点」について説明してから草原のコースに戻りました。久々に姿を見せた「モリアザミ、セイタカトウヒレン、ハバヤマボクチ」が一か所にまとまっている所を案内。

調査のため2010年に先行設置したシカ柵の内外の生育状況を昨年撮った写真と見比べて観察してもらいました。帰路は三枝さんの先導で湿地のアケボノソウを見てから、より安全のため早めに林道に出て一路焼山峠へ。予定時間より30分遅れの16時に到着。何よりもケガ人もなく天候にも恵まれた観察会となりました。

私にとってもとても収穫の多い観察会となりました。ありがとうございました。私自身の反省点としては、話をするとキランシーバを使い参加者皆さんに伝わるようにすべきだったことです。

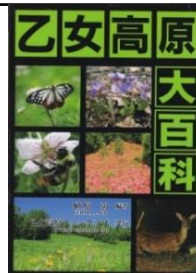
乙女高原ファンクラブの事務局だよ

- 今号に載せきれない記事や原稿がありました。「原稿を書いたのに載ってないよ」という皆さん、次号には必ず載せますので、お許しください。他の方も、ぜひ、原稿をお寄せください。
- 乙女高原フォーラムは2017.1.29(日)。テーマは谷地坊主。ゲストは神奈川県博の勝山さん。乞ご期待!

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→在庫切れになってしまいました。

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマイルウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマイルを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマイルたちのプロフィールを紹介するとともに、スマイル観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员のみに送付しています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ